

茨城県支部会報

URL : http://www.engineer.or.jp/c_shibu/ibaraki/
 E-mail : ibaraki@engineer.or.jp

内容	・ 2015 年度年次大会	1
	支部長挨拶、来賓挨拶	1
	2014 年度活動報告、2015 年度活動計画	2
	・ 講演会・交流会開催	3
	・ 平成 27 年度技術士合格者祝賀会・講演会、茨城県支部新役員紹介	4

2015 年度年次大会

2015 年 6 月 27 日(土)14 時より、ひたちなか市ワークプラザ勝田において、茨城県支部の第 4 回年次大会が多数の来賓のご出席をいただき開催された。

支部長挨拶

茨城県支部 支部長 本田永信

本日は大変暑いなか年次大会に出席いただきありがとうございます。また、ご来賓の方々には日曜日にもかかわらずご列席賜り誠にありがとうございます。

今年は役員選挙があり 4 月には結果が判明していますが、役員任期は 6 月の全体の定時総会から 2 年となっており、また 7 月の本部の理事会で県の支部長が選任されるため、県の年次大会がこの暑い時期になっていることをご理解お願いいたします。

茨城県支部もスタートして 3 年が経過しました。この一年、年次大会・講演会・交流会、新年講演会・交流会、一次・二次試験合格者祝賀会・講演会の開催、「茨城県霞ヶ浦環境科学センター夏祭り 2014」および「青少年のための科学の祭典ひたちなか大会」に出展、工業技術センターの研究成果発表会のコーナーでの紹介展示など中小企業支援への関係機関との連携活動、CPD ミニ講座開催、テーマ毎の CPD 啓発講座で見学会の開催、大学・高専の JABEE 関係者への説明、茨城県支部ホームページの拡充、支部会報の発行などを行いました。また、昨年度は県南地域の活動を支援する県南委員会を設け拠点として活動をスタートしました。さらに、中小企業小委員会、理科教育支援小委員会を設けました。スタッフが顔を合わせて活動の方向付けを行う場として役立つものと期待しています。

今年度は役員選挙で 2 名退任、2 名新任となりましたが、役員定員にはまだ 4 名の枠があります。委員会関係スタッフも継続募集しておりみなさまの参加をお願いします。

新しいメンバーで運営していきますので、今後とも、皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



本田支部長

来賓挨拶

茨城県中央会専務理事 岩間伸博氏

ご来賓の方々を代表して、ご挨拶申し上げます。

今の日本には、人口減少への対策や地方活性化などへの取り組みが大きな課題であります。これらの課題の中で、中小企業中央会では、国の補助金を活用して中小企業の発展を図るため活動しています。日本技術士会茨城県支部の皆様には、日ごろからこの活動に対して、中小企業の科学技術の振興という観点からご支援をいただいております。大変ありがたく、御礼申し上げます。

地域の振興は産業の発展なくしてはありません。引き続き日本技術士会茨城県支部のご協力を得て産業活性化に取り組んでいきたいと考えております。

当社の役割もこれから益々大きくなってまいります。日本技術士会茨城県支部の皆様との連携を一層深め、県内の中小企業が発展できますように、互いに手を携えてご協力を戴ければありがたいと思っております。

最後になりましたが、本日の開催、誠にありがとうございます。



挨拶される岩間専務理事

年次大会概要

年次大会では、本田支部長より平成 25 年度の事業報告及び平成 26 年度の事業計画が報告された。

1. 2014 年度事業報告

(1) 年次大会・役員会・委員会活動

- ① 年次大会を 6 月 7 日に開催した。茨城県支部会員(543 名)のうち、59 名が参加した。
- ② 支部長を含め 16 名で構成される役員による支部役員会を 12 回開催した。
- ③ 総務、広報、業務・地域貢献の 4 委員会では、役員会の開催日に合わせ委員会を開催した。各委員会が研修会・見学会の開催等の活動を行った。
- ④ 県南地区の活動強化のため、県南委員会を 9 月 6 日に発足させ、7 回開催した。
- ⑤ 中小企業支援小委員会、理科教育支援小委員会を業務・地域貢献委員会の中に設置した。
- ⑥ 中小企業支援小委員会では、(株)つくば研究支援センターが関東経済産業局の「新産業集積創出基盤構築支援事業」に応募するに当たっての協力と、応募事業採択後の活動支援を行った。

(2) 行事

- ① 年次大会と同時に「講演会・交流会」を開催した。(6 月 7 日)
- ② 「新年講演会・交流会」を平成 27 年 1 月 17 日に開催した。
- ③ 「技術士合格者祝賀会・講演会」を 4 月 5 日に開催した。
- ④ CPD ミニ講座「ザ・技術士」を 6 回開催した。
県南地区でも CPD 講座を開催することとし、内 2 回を開催した。開催に際しては、自治体や地元企業、高校へも参加を呼び掛け、出席してもらった。
- ⑤ CPD 啓発講座として、「国土強靱化」、「水環境」をテーマにした見学会を 2 回開催した。



盛会の年次大会

(3) その他

- ① 「茨城県霞ヶ浦環境科学センター夏祭り 2014」に参加し、日本技術士会の紹介、理科の工作の展示を行った。(8 月 3 日)
- ② 「青少年のための科学の祭典 2014 ひたちなか大会」に参加し、日本技術士会の紹介、理科工作の展示を行った。(11 月 2 日、3 日)
- ③ 茨城県工業技術センター主催による「産学官合同成果発表会」に出展し、日本技術士会の紹介及び技術相談を実施した。(平成 27 年 2 月 13 日)
- ④ 茨城県内の JABEE 認定校である茨城大学と茨城工業高等専門学校の授業において、技術士倫理と技術士制度の紹介を行った。(7 月 25 日及び平成 27 年 1 月 7 日)
- ⑤ 日本技術士会の WEB サイト支部 HP に、行事案内、活動状況報告他を掲載した。(逐次実施)
- ⑥ 茨城県支部会報を 2 回発行した。(10 月及び平成 27 年 2 月)。

2. 2015 年度事業計画

茨城県支部は統括本部の事業計画書に沿って特に地域的な会員活動を一層活発化するように取り組んでいく。特に、会員技術士の力を結集して、地域に密着したきめ細かな対応を通して技術士活動の活性化を図り、国、県、各市町村、関連諸機関、県内企業・団体及び県民に対する科学技術の向上と県民経済の発展に寄与するよう取り組む。

平成 27 年度は、これまでの実績を踏まえ、茨城県支部として事業を着実に進展させるとともに、引き続き円滑な運営に注力していく。

主要な活動テーマは次の通りである。

(1) 技術士及び技術者の倫理の啓発

- ・「技術士倫理綱領」を技術士へ浸透させるため、講演会等の機会を捉え技術者倫理の啓発に努める。

(2) 技術士の資質向上

- ・「年次大会での CPD 講演会」、「新年講演会」の開催
- ・「技術士 CPD ミニ講座」、「テーマ毎 CPD 啓発講座」の開催
- ・「技術士第一次及び第二次試験合格者祝賀会・講演会」の開催

(3) 技術士制度の普及・啓発

- ・技術士制度の普及・啓発のために、県及び関連機関、団体他への技術士の活用促進を働きかける。

(4) 業務開発及び活用促進

- ・新たな事業の開拓とその普及並びに県及び関連機関、団体等への働きかけを行う。
- ・昨年度設置した「中小企業支援小委員会」を中心に推進する。

講演会 年次大会に引き続き、講演会が実施された。

◆ 講演1 「『チーム・技魔女』のプロボノ・パブリコ」
～専門知識・技術を活かした『社会貢献』～

日立技術士会 活動グループ「チーム・技魔女」 001号 千木良 美由紀氏
003号 西村 丹子氏

「チーム・技魔女」は、日立技術士会所属の女性技術士により2013年1月に結成されたグループで、現在9部門にわたる12名で活動している。メンバー自身が楽しむことを大事にしながら、①日立技術士会の組織力、②技術士としての能力、③働く女性の特性の三つの要素を総合的に活用して、社会貢献と女性技術士の相互研鑽と交流の機会を創出することを活動目的としている。チーム名は、ブランドの確立を狙い、2012年の流行語大賞「美魔女」に「技」を加え、インパクトのある「技魔女」とした。女性の活躍によるダイバーシティ(多様性)実現のためにも、この名前で社会貢献活動を行うことが良いと判断した。チームは階層ナシ、全員参加の強制もナシで組織構造を極力作らないようにして、個々人の創造性発揮と相互のシナジー効果が期待できるようにした。



「技魔女」のお二人

具体的な活動は、それぞれが自身の得意「技」を活かしながら、①メンバーの交流・相互研鑽、②次世代の育成、③女性のキャリアデザイン支援などを行い、個人の取り組みにチームとしてのブランドを付加することで、地域・社会へ貢献している。例を紹介すれば、小学校などでの理科実験工作、女子高生・女子学生の理工系進路選択支援などで「プロボノ・パブリコ(社会貢献)」を実践している。これらは、多くのメディアにも取り上げられ、大きな関心をよぶことができた。今後は積極的にグローバル展開を進め、より一層の社会貢献を行ってきたいとの希望を交え、チームを代表とした二人の技魔女に熱く語っていただいた。

◆ 講演2 「曖昧な好感度を戦略的に作り出す！ 第一印象コントロール法」

印象エキスパート株式会社 代表取締役 柳沼 佐千子氏

ご挨拶に「初対面の名刺交換で、『印象エキスパートってなあに？、象印？』、そう言えば、何かに似てますかねえ」と会場を和ませてから本題に入った。

ビジネスマナーの講習は、仕事をする上で最低限クリアする教育であるが、印象トレーニングはビジネスのそれぞれの環境においてダントツな好感度を目指すものである。

一般大衆の購買行動では、最初に好印象を持った店に継続的に利用する人が9割強であり、第一印象がビジネスの結果に直結し効果の相関が高い。印象トレーニングでは、ビジネスの現場で「一番お客様が好反応を示す印象づくり」を具体化して行く。

人の購買行動パターンは、右脳(感性)から入り左脳(理性)に移り両者のバランスで判断し行動をとる。中身が全く同じ物でも、好印象の人から勧められた場合に購入する確率ははるかに高い。ならば相手の脳に好印象の反応を意図的に仕掛ければ良いことになる。この「曖昧な好印象」は何処から来るものか。声と外観から判断する人が9割強で、それも一瞬に反応しており、最も印象を左右するのは顔の表情であり、意図的・戦略的に素早く笑顔を見せれば効果的である。このためには普段から顔の筋力を鍛えておく必要がある。

プロゴルファーになった後、アナウンサーや番組制作などの経験を基に印象エキスパート(株)を創立し、多くの大企業等で印象トレーニング講座を開いているという紹介のあと、引き込まれるような講演があり、最後に「男性も、笑顔・顔の筋力トレーニングが必要」と締めくられた。



講演される柳沼氏

交流会

年次大会、講演会に引き続き、恒例の交流会が場所を「遊々亭」に移し、佐藤副支部長の司会により賑やかに開催された。本田支部長、(公財)茨城県中小企業振興公社奥川洋次氏のご挨拶に引き続き、国立研究開発法人科学技術振興機構の友田和美氏の乾杯で幕をあげた。

ご講演をいただいた千木良美由紀氏、西村丹子氏、柳沼佐千子氏のご参加を含め40名を越える参加で、講演者を中心に、議論を求める方々が輪になって賑やかに歓談されていた。

最後に岸副支部長の挨拶と一本締めで盛会裏に終了した。



盛会の交流会

平成 26 年度技術士合格者祝賀会・講演会

平成 27 年 4 月 4 日(土)、ワークプラザ勝田において、平成 26 年度技術士合格者祝賀会が 41 名の参加者(内、新合格者 11 名)の出席を得て開催された。

冒頭、本田支部長により茨城県支部の活動紹介が行われ、「霞ヶ浦環境科学センター夏祭り」、「青少年のための科学の祭典」等の行事や、CPD 講座・見学会など県支部活動への参加協力を呼びかけた。

次に小林守氏より一次試験合格者に向け「修習技術者のための修習ガイドブック(第3版)」が紹介され、続いて鈴木但義氏による講演「交渉力アップ」が行われ、プロジェクトを進めるときの 8～9 割の仕事がコミュニケーションであり、交渉力はとても大切であると、詳しく、分かり易く解説された。

最後に、交流会が盛大に行われた。今年度の合格者の参加は昨年に比べ 1.4 倍で賑やかであった。一人ずつ、自己紹介とともに近況や専門領域の話、抱負などを話していただいた。

今年度は合格者の参加が多く、活発に意見・情報交換が行われ、また県支部の紹介や PR も十分に行うことができ、盛会裏に終了した。



多数の参加者による合格祝賀会



講演される小林氏



講演される鈴木氏



新合格の方々を交えての交流会

茨城県支部新役員紹介

今年は役員選挙があり 4 月に結果が判明しました。また 7 月の日本技術士会統括本部の理事会で県の支部長が選任されました。役員の任期は 6 月の日本技術士会の定時総会から 2 年で、年次大会で紹介されました。

氏名	役 職	氏名	役 職
飯泉 紀子	研修委員会副委員長	佐藤 美律子	茨城県副支部長 総務委員会委員長
石田 正浩	広報委員会副委員長	高橋 正衛	会計幹事 総務委員会副委員長
市毛 修	事務局次長	寺本 和義	業務・地域貢献委員会副委員長
伊藤 裕	業務・地域貢献委員会副委員長	堂本 隆	会計幹事 広報委員会副委員長
今本 信雄	総務委員会副委員長	本田 永信	茨城県支部長
大脇 隆志	茨城県副支部長 事務局長	前小屋 千秋	研修委員会副委員長
岸 敦夫	茨城県副支部長 業務・地域貢献委員会委員長	松井 透	茨城県副支部長 県南委員会委員長
小林 守	研修委員会委員長	松本 宏	広報委員会委員長

編集後記

- ◆茨城県支部会報第 6 号では、2015 年度年次大会を中心に記載した。H26 年度の活動実績と H27 年度の活動計画が報告された。会員の CPD に資する活動、地域社会への貢献活動など、多岐にわたる活動がされている。
- ◆新しい役員が選出され、茨城県支部も 4 年目がスタートした。関係各位のご期待に沿える活動をしよう。
- ◆講演会は、我々技術士にとって、時宜を得た、示唆に富んだ内容のお話であった。紙面の都合で全てをお伝えできないのが残念である。(Hm)

広報委員会：松本 宏(委員長)、石田 正浩、野口 芳樹、萩原 覚、堂本 隆

・情報提供は、E-mail：matsumoto_pe@net1.jway.ne.jp(松本)まで